

令和4年度農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表

都道府県名：福岡県

農業委員会名：八女市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和4年4月1日現在)

※「I 農業委員会の現況」については、別紙様式1の内容を転記

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 2 年 7 月 20 日

任期満了年月日 5 年 7 月 19 日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	24	24
認定農業者	—	16
認定農業者に準ずる者	—	0
女性	—	1
40代以下	—	0
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	45	45	13

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	3,614
農業経営体数	2,435

※「2020農林業センサス」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	4,093
女性	1,753
40代以下	213

※「2020農林業センサス」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	676
基本構想水準到達者	115
認定新規就農者	41
農業参入法人	42
集落営農経営	—
特定農業団体	—
集落営農組織	—

※農業委員会調べ(令和4年4月1日現在)

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	2,450	4,000	0	0	0	6,450

※直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

Ⅱ 最適化活動の実施状況

【農業委員会の実績及び点検・評価結果】

※ 「現状及び課題」及び「目標」については、別紙様式1の内容を転記

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)／(A)
	6,450 ha	2,312 ha	35.8 %
課題	これまで兼業農家や高齢農家等から担い手へ農地の集積が図られ、農業生産が維持・発展したところである。今後、高齢化による離農がさらに進行することが予想される。このような状況の中、耕作条件の良い農地は生かせるうちに、担い手へ集積することが重要となっている。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	令和10年度	集積率	80 %
今年度の新規集積面積	76 ha	農地面積(C)	6,450 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	2,388 ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)／(C)	37.0 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

③ 実績

今年度の新規集積面積	139.6 ha	農地面積(F)	6,450 ha
今年度末の集積面積(累計)(G)	2,452 ha	今年度末の集積率 (H)=(G)／(F)	38.0 %
目標に対する達成状況(H)／(E)	102.7 %		

農業委員会の点検結果	平坦部の水田農業地域においては利用集積は自ずと進んでいるが、中間地域、山間地域において水田は不整形、狭小等の問題や担い手不足により利用集積が進まない。
------------	---

※1 今年度の新規集積面積は、当該年中の集積面積(フロー)を記入

※2 今年度末の集積面積(累計)は、年度末時点の集積面積(ストック)を記入

(2) 遊休農地の発生防止・解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積		
		うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	428 ha	17 ha	411.0 ha
八女東部の急峻な地形等による条件不利地域では、高齢化及び過疎化に伴って農業後継者に継承されない又は担い手に集積されない農地で一部遊休農地化したものが近年増加傾向にある。			

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	17.0 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積(C)	3.4 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

ｂ 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	411.0	ha
黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	黄区分の遊休農地のうち基盤整備が必要な農地については、市と情報を共有し市・農地バンク等連携のもと、基盤整備の実施方法等について検討する。	

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	3.4	ha
---------------------------	-----	----

③実績

ア 既存遊休農地の解消

ａ 緑区分の遊休農地の解消

今年度の緑区分の遊休農地の解消実績面積(D)	0.7	ha
今年度の目標に対する達成状況(D)／(C)	20.6	%

ｂ 黄区分の遊休農地の解消

黄区分の遊休農地の解消に向けた工程表の策定状況	黄区分の遊休農地のうち基盤整備が必要な農地については、市と情報を共有し市・農地バンク等連携のもと、基盤整備の実施方法等について検討した。
-------------------------	--

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消実績面積	5.5	ha
---------------------------	-----	----

④その他

農地の利用状況調査	調査実施時期		調査結果取りまとめ時期	
	8月～11月		11月～12月	
	1号遊休農地の面積	413.0 ha	うち緑区分の遊休農地	20.0 ha
			うち黄区分の遊休農地	393.0 ha
農地の利用意向調査	調査実施時期		調査結果取りまとめ時期	
	11月～1月		2月～3月	

農業委員会の点検結果	農地の利用状況調査(農地パトロール)により、所有者への遊休農地解消への理解は進みつつある。今後も利用状況調査を行い、有効利用が図られるよう誘導する必要がある。また、赤区分に移行した農地については適宜非農地判断を行い守るべき農地を明確にする。
------------	--

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	令和元年度新規参入者	令和2年度新規参入者	令和3年度新規参入者
	4 経営体	13 経営体	10 経営体
	2.4 ha	5.7 ha	7.7 ha
課題	新規就農にあたり、営農技術習得、資金の確保、農地の確保等の課題があるが、大きな問題となるのが研修期間の生活と研修を支える資金であり、その確保が重要である。		

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体に集積した農地面積を記入

②目標

権利移動面積	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平均
	169 ha	181 ha	206 ha	185 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積(A)	18.5 ha			

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

③実績

新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表した農地の面積(B)	34.0	ha
公表URL	https://www.city.yame.fukuoka.jp/soshiki/13/1/1454652610758.html (その他の公表方法)	
目標に対する達成状況(B)/(A)	183.7	%
(参考)新規参入者の参入状況	参入経営体数	8 経営体
	取得農地面積	8.5 ha

農業委員会の点検結果	貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表した農地の面積は、目標に対し大幅に上回る結果が得られた。今後も関係機関と連携しながら情報提供に努める。
------------	---

※ 参入経営体数は、農地を取得して新たに農業に参入した経営体数を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	8 日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	24 人
		農地利用最適化推進委員の人数	45 人

(2)活動強化月間の設定

①目標

活動強化月間の設定回数	4 回
-------------	-----

取組時期	取組項目	強化月間の内容
8月	②遊休農地の解消	農地パトロール、利用状況調査
9月	②遊休農地の解消	農地パトロール、利用状況調査
10月	②遊休農地の解消	農地パトロール、利用状況調査
3月	①農地の集積	口頭による貸借から、農業委員会を通した利用権設定への切り替えを促進する。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の発生防止・解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

②実績

活動強化月間の設定回数	4 回
-------------	-----

取組時期	取組項目	強化月間の結果
8月	②遊休農地の解消	農地パトロール、利用状況調査により担当地区における農地の状況を把握した。
9月	②遊休農地の解消	農地パトロール、利用状況調査により担当地区における農地の状況を把握した。
10月	②遊休農地の解消	農地パトロール、利用状況調査により担当地区における農地の状況を把握した。
3月	①農地の集積	口頭による農地の貸借を、法に即した貸借への切り替えに促すことにより農地の利用集積率の向上につながった。

※ 強化月間の結果欄は、強化月間中に行った具体的な取組の内容とその結果生じた効果等の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加

①目標

新規参入相談会への参加回数	1回
---------------	----

開催時期	未定	相談会名	未定
参加者数	1名	開催場所	未定
相談会の内容	新規就農に関する研修・説明会に参加		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加する場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する

②実績

新規参入相談会への参加回数	0回
---------------	----

開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加した相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加した新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加した場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する(評価点欄は追加しない)

目標の達成状況の評語

目標に対して期待を上回る結果が得られた

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語を記入

【推進委員等の点検・評価結果】

評語	推進委員等の人数
目標に対し期待を大幅に上回る結果が得られた	0
目標に対し期待を上回る結果が得られた	0
目標に対して期待どおりの結果が得られた	69
目標に対して期待を(やや)下回る結果となった	0

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語ごとの該当する推進委員等の人数を記入

Ⅲ 事務の実施状況

都 道 府 県 名 : 福岡県
農 業 委 員 会 名 : 八女市農業委員会

1 総会、部会の開催実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考(定例開催以外の理由)
総会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

※ 総会又は部会の月ごとの開催回数を記入

2 農地法第3条に基づく許可事務

1年間の処理件数		173 件	うち許可 173 件			
処理期間	実施状況	標準処理期間	申請書受理から 28 日	処理期間(平均)	20 日	
	総会開催日の公表	公表している		申請書締切日の公表	公表している	

3 農地転用に関する事務(意見を付して知事への送付)

権限移譲の状況 (当てはまるものに○)	・農地法第4条第1項の規定に基づく指定市町村に指定							
	・地方自治法第252条の17の2第1項に基づき市町村長へ事務委任							
	・地方自治法第180条の2に基づき市町村長から農業委員会へ事務委任							
1年間の処理件数		120 件	うち許可相当 120 件		うち不許可相当 0 件			
処理期間		標準処理期間	申請書受理から 40 日		処理期間(平均)		20 日	

4 違反転用への対応

現 状	管内の農地面積	年度末時点の違反転用面積
	0 ha	0 ha
違反転用解消のために 実施した活動内容	違反転用早期発見・未然防止のため広報誌による周知・啓発を行い、8～11月に農地の利用状況調査(農地パトロール)を行った。	
実 績	違反転用解消面積	0 ha

※1 管内の農地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※2 違反転用面積は、管内で農地法第4条第1項又は第5条第1項の規定に違反して転用されている農地の面積を記入

※3 活動内容は、違反転用の解消や早期発見・未然防止のために何月に何日何を行ったのか等について具体的に記入